

## 私とワーク・ライフ・バランス

### 「介護の実践者からのメッセージ」

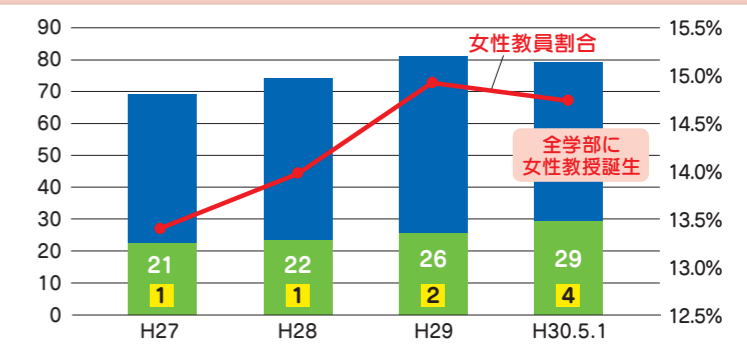
理工学研究科長  
工学部長 増澤 徹

3年前に父が亡くなり、母の実家での独居生活が始まった。指に力が入らない状態であったが(要介護2)、妹が近くに住んでいたため、当初は介護サービスによる独居を目指した。しかし、認知症周辺症状が現れ他人を家に入れることや老人ホーム入居を拒否するようになったため、日立の我が家に引き取った。1年ほど妻が面倒を見ていたが、その間に転んで手が使えなくなり要介護3となった。手が使えないのでトイレもままならず夜中に何回も呼ばれる毎日が続き、他人を家に入れることも拒否するため、限界ギリギリの状態です。在宅介護を行って

た。この様に被介護者の状態により介護サービスを使用できない場合もある。昨年末に高熱で入院、車椅子生活になり、ようやく本人も納得し特別養護老人ホームに今年6月に入居し自宅介護は終わった。介護は先が見えない問題である。そのため、介護により自身の生活がとてとて圧迫された場合は経済的に可能であれば、有料老人ホームへの入居を勧める。もし、介護サービスを使え、年単位で待つことが可能ならば、特別養護老人ホームへの入居も考えられる。皆様の被介護者が話して分かる存在であることを切に望みこの話を締める。

## 全学部に女性教授が誕生しました

■ 女性教員数(教授以外)  
■ 女性教授数  
● 女性教員の割合  
■ 理系学部所属の教授



## 平成30年度上半期行事報告

### 茨城大学オープンキャンパスにて、女子高校生向け企画を実施しました

#### 理学部「理系女子応援企画 聞きたい リケジョ先輩のキャンパスライフ!」

日時:平成30年7月28日(土) 10:00~12:30  
会場:水戸キャンパス 理学部D棟2階 ラウンジ 参加者:36名

女子高校生向けに、理学部の教員および大学院生2名、学部生1名による講演会や相談会を実施しました。参加者からは「文系・理系の選択に迷っている。理系にした決め手はなにか」「宇宙を研究したい。どのコースにいけばよいか」などの相談や「進路のことをきけて良かった」などの感想がありました。



#### 工学部「リケジョ・カフェ@茨大工学部」

日時:平成30年8月4日(土) 11:00~15:30  
会場:日立キャンパス 工学部E1棟 多目的ラウンジ 参加者:16名

工学部5学科の教員、大学院生、学生による相談コーナーを開設しました。参加者からは「大学院への進学はいつ頃決めたか」などの相談や「女子学生が少ないので心配だったけど、少ない分まとまりがあって仲良くなれると聞いて安心した」「親身になって相談に乗ってくれて、とても参考になった」などの感想がありました。



### 茨城大学ダイバーシティ推進室・水戸市共催セミナー

#### 「いま就職を考えているあなたへ わたしのキャリアとワーク・ライフ・バランス」

日時:平成30年7月13日(金) 14:20~15:50  
会場:茨城大学図書館ライブラリーホール 参加者:76名

清山玲教授(人文社会科学部)の進行のもと、本学卒業生を含む男女3名(勤務先:(株)常陽銀行、(株)カスミ、水戸市役所)がパネリストとして登壇し、キャリア形成や両立支援のための先進的な人事労務管理制度の紹介や、共働き家庭での育児・家事の分担や工夫などについて体験をふまえた講演がありました。参加した学生からは「ワーク・ライフ・バランスを重視しているかどうかという観点も会社を選ぶ際には大切だと考えるようになった」などの感想がありました。



### 茨城大学におけるダイバーシティ推進のための意見交換会

日時:平成30年7月10日(火) 13:00~13:50  
会場:水戸キャンパス 事務局棟第二会議室 参加者:9名

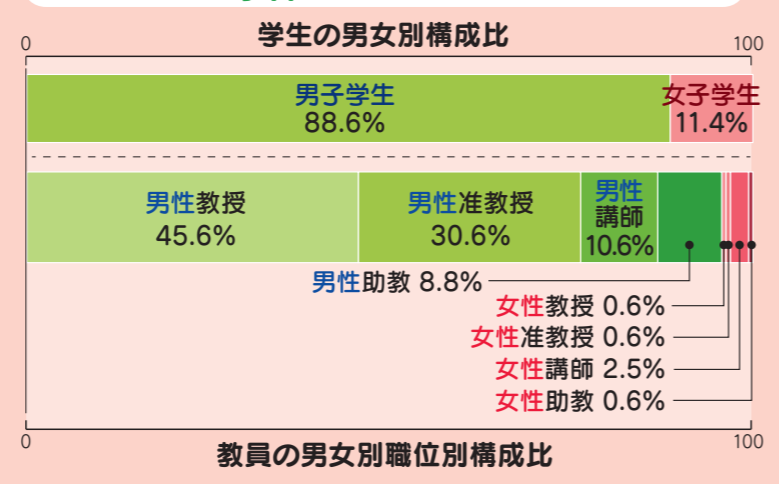
国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)科学技術プログラム推進部プログラム主管山村康子氏、主任調査員篠原克也氏をお招きし、本学学長、理事、学部・全学教育機構執行部等との意見交換会を開催しました。山村主管は「女性研究者支援・養成事業の実績と今後の動向」と題して講演を行うとともに、本学への期待を述べられました。全学及び各学部・全学教育機構でのダイバーシティ推進に向けての取組や課題について、山村主管と本学出席者として率直な意見交換を行いました。



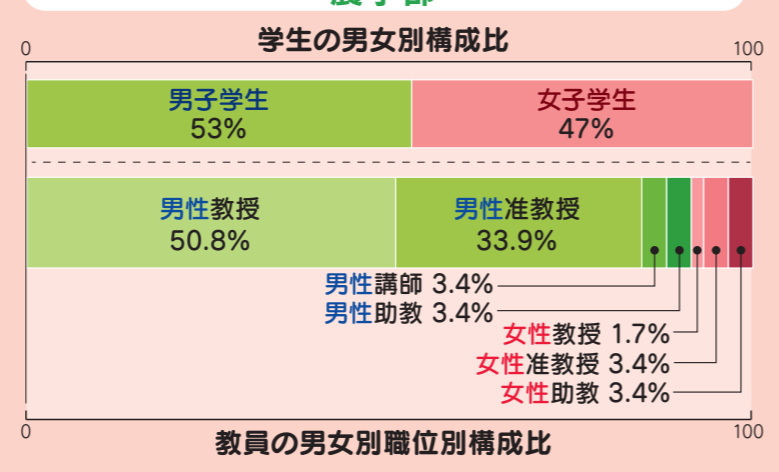
## データで見る茨城大学

平成30年5月1日現在 ※再雇用者を除く

### 工学部 (理工学研究科(工学野))



### 農学部



## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型) 中間総括シンポジウムを開催いたします

平成28年から6年間にわたる本プロジェクトの活動について、前半3年間の成果を中間総括し、学内外に情報発信するとともに、先進事例を参考にしつつ、本学におけるダイバーシティ推進のあり方と今後の展望を描くことを目的として、シンポジウムを開催いたします。シンポジウムでは、東村博子氏(名古屋大学副理事(男女共同参画担当))による基調講演や学内外の関係者によるパネルディスカッションを予定しています。多くの方々の参加をお待ちしております。

日時 平成30年12月18日(火) 13:30~15:30

会場 茨城大学水戸キャンパス 図書館ライブラリーホール ※臨時託児所開設予定

## 編集後記

本学でのダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)の取組も3年目を迎えました。皆さまのご協力により、女性教員増や様々な取組を実施することができました。後半の3年間でこれらの成果や取組を定着させていきたいと思いますので、今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

## 女性研究者メンター制度を開始しました

ダイバーシティ推進室は、研究力向上を目指す女性研究者ならびに妊娠・出産・育児や介護などのライフイベントと研究の両立で悩む女性研究者のために、指導および助言、相談を行う者(メンター)を配置する「女性研究者メンター制度」を平成30年9月1日よりスタートしました。女性研究者が、研究生活において抱える諸問題や将来のキャリア形成に関して、その自発的な解決に向けて、メンターを得て支援することを目的としています。

### ミニセミナー 「メンタリングの基本的な心構え」を開催しました!

日時:平成30年9月5日(水) 15:00~15:45  
会場:水戸キャンパス 事務局棟第一会議室、日立・阿見キャンパスへ配信  
参加者:20名



「女性研究者メンター制度」の導入に先立ち、相談を受けるメンターの不安を軽減するため、本学の矢嶋敏純講師(全学教育機構 バリアフリー推進室 専任教員)によるミニセミナー「メンタリングの基本的な心構え」を開催しました。

## 臨時託児所とベビーシッター券のご案内

### 臨時託児所の開設について

仕事と育児・介護の両立支援の一環として、本学が主催するイベントおよび休日に実施する大学入試業務において、託児を希望する参加者がいる場合は、臨時託児所を開設いたします。詳細は、下記ダイバーシティ推進室HPまたは当室までお問い合わせください。

### 大学のイベントにおける臨時託児所の開設について

<http://www.ibaraki.ac.jp/diversity/news/2018/08/021129.html>



### 入試に係る臨時託児所の利用について

ダイバーシティ推進室までお問い合わせください。

### 平成30年度計画

	イベント	入試
実施形態	託児事業者による業務委託	
開催主体	イベント主催者	ダイバーシティ推進室
日時	平成31年2月までの平日および土日(祝日を除く) 9:00~17:00	平成30年11月24日(土) 平成31年 1月19日(土) 平成31年 1月20日(日)
場所	学内	学外3か所
利用対象者	参加者	入試業務担当者
託児対象者	3歳~小学校3年生	
利用料金	子ども1人あたり 1時間250円	

### ベビーシッター派遣事業割引券を 試行導入しました

仕事と育児の両立支援のためにベビーシッター派遣事業割引券を発行します。この割引券により、所定のベビーシッターサービスを利用の際、割引券1枚につき利用料金から2,200円の割引が受けられます。

### 平成30年度ベビーシッター派遣事業割引券 利用案内【試行】について

<http://www.ibaraki.ac.jp/diversity/news/2018/09/251519.html>



割引券発行は、内閣府の委託を受けた公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「企業主導型ベビーシッター利用者支援事業」です。

### 平成30年度計画(試行期間:11月下旬~2月)

- 利用対象者**  
本学に在籍する教職員共済組合員および厚生年金被保険者
- 利用条件**
- 就労のため  
割引券が利用できる就労(例)  
①大学が命じた業務(入試・イベントなどを含む)  
②学外勤務、出張  
③職場復帰のため
  - 割引券利用日に両親ともに就労していること
- 託児対象者** 0歳~小学校3年生
- 発行枚数** 1家庭12枚
- 割引額** 1家庭につき、1日あたり2,200円
- 利用方法**
- 利用者がベビーシッター事業者(割引券取扱業者)と利用契約を結び、利用申し込みする。
  - ダイバーシティ推進室へ割引券発行を申請する。
  - 割引券を受取る。
  - 割引券を使用する。半券をベビーシッター事業者へ提出する。
  - 半券をダイバーシティ推進へ提出する。

## ランチョンセミナー ワーク・ライフ・バランス(介護)を開催しました

- |             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| 水戸<br>キャンパス | 日時:8月9日(木) 12:00~13:00<br>参加者:10名 |
| 日立<br>キャンパス | 日時:8月10日(金) 12:00~13:00<br>参加者:8名 |
| 阿見<br>キャンパス | 日時:8月8日(水) 12:00~13:00<br>参加者:7名  |

「仕事と介護の話題を自分のこととして捉え、考えることから始めよう」をテーマに、昼休みを利用して、ランチョンセミナーを開催しました。仕事と介護の両立のために必要な事前の心構えと関連情報をまとめたビデオを視聴後、参加者が感想等を交え、意見交換を行いました。また、本学の介護支援制度を紹介するとともに、地域の介護サービス支援に係るパンフレットを配付しました。

参加者から「まだ、実感はないが「介護支援制度」や「地域包括支援センター」という言葉を知るだけでも参考になった」「両親の介護に直面している。何をしたらいいかわからな



い状況であるが、ビデオやパンフレットが参考になった。タイムリーなセミナーであった」「40代以上は絶対に聞くべきだと思うので研修の一つに組み入れてもよいと思う」「介護経験者が集まって、介護手続きのノウハウや施設の様子などを情報交換するような企画があるとよい」などの感想がありました。

### 「仕事と介護両立のポイント あなたが介護離職しないために」

(厚生労働省平成29年度版より抜粋)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyoukintou/ryouritsu/model.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/ryouritsu/model.html)



### ~介護をしながら働き続けられるためのポイント~

- ポイント1** 職場に「家族等の介護を行っていること」を伝え、必要に応じて勤務先の「仕事と介護の両立支援制度」を利用する
- ポイント2** 介護保険サービスを利用し、自分で「介護をしすぎない」
- ポイント3** 介護保険の申請は早めに行い、要介護認定前から調整を開始する
- ポイント4** ケアマネージャーを信頼し、「何でも相談する」
- ポイント5** 日頃から「家族や要介護者宅の近所の方々等と良好な関係」を築く
- ポイント6** 介護を深刻に捉えずに、「自分の時間を確保」する

### 本学の介護支援制度(常勤教職員)

- 介護休業** 要介護状態の家族を介護する教職員は、対象家族1人につき要介護状態に至るごとに、通算186日まで、3回まで分割して取得できます。
- 介護休暇** 要介護状態の家族を介護する教職員は、介護その他の世話(介護、通院などの付き添い、介護サービスの適用を受けるために必要な世話)をするために1事業年度に5日(要介護状態の家族が2人以上の場合は10日)休暇を取得できます。
- 早出遅出勤務** 要介護状態の家族を介護する教職員は、1日あたりの勤務時間を変更することなく、始業・終業の時間を変更できます。
- 時間外労働及び休日労働の免除** 要介護状態の家族を介護する教職員は、時間外労働の免除・休日労働の免除を請求できます。
- 時間外労働の制限** 要介護状態の家族を介護する教職員は、時間外労働の制限(1月24時間、1年150時間以内)を請求できます。
- 深夜労働の制限** 要介護状態の家族を介護する教職員は、深夜(午後10時~午前5時)までの労働の制限を請求できます。

上記の制度の詳細や常勤以外の教職員の支援制度については、下記をご参照ください  
[www.ibaraki.ac.jp/diversity/worklife/index.html](http://www.ibaraki.ac.jp/diversity/worklife/index.html)

